

Web 教材の活用

- 中学校歴史分野において -

Web 教材は, 文字, 画像, 音などのマルチメディア素材を活用して教材を作成し, インターネットや校内 LAN を通して提供するものである。Web 教材の授業での活用は, 情報活用能力の育成に有効であるばかりでなく, 生徒の興味・関心を喚起し, 教科における内容の深化や定着に効果的で, 教科の目標達成に有効であると考えられる。

当教育センターでは, Web 教材がもつこれらの有効性を実証し活用の促進を図るために, 昨年度から本年度にかけて「Web 教材開発と実践的活用の研究」のテーマで調査研究を行っている。その中で, 「かごしまの遺跡をたずねて」(図 1 にトップページを示す。) の教材を開発し, 当教育センターの Web ページ「教育ネットかごしま」から発信して実証授業を行った。そこで, 実証授業を基に Web 教材の具体的な活用について述べ, その活用促進を図る。

1 Web 教材の有効性

Web 教材の有効性については, 前述の事項に加え次のようなものが考えられる。

インターネットや校内 LAN などネット

トワーク環境における教材配信や交換がタイムリーに行える。

教師が学習指導用ソフトウェアを容易に作成でき, 児童生徒の個に応じた指導ができる。

個別指導や一斉指導だけでなく, グループ指導を併用することで児童生徒同士の学び合いなどコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。

(指導資料 通巻第 1313 号より引用)

2 Web 教材「かごしまの遺跡をたずねて」の活用例

(1) 教材の概要紹介

本教材は, 本県における旧石器時代から弥生時代までの人々の生活の変化など



図 1 「かごしまの遺跡をたずねて」のトップページ (<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/er/ruins/top.htm>)



図2「交流学習」に関するページに焦点を当て、中学校の歴史分野での活用を目的として作成したものである。目次に示している「各時代のテーマから調べる」を開くと、旧石器時代から弥生時代までを遺跡、自然環境、食、社会などのテーマごとに学習ができる。また、「遺跡名や地図から調べる」を開くと、遺跡名と本県の地図から遺跡の概要を理解できるようになっている。さらに、「交流学習」「チャレンジコーナー」「リンク集」「用語解説」「著作権について」の項目を設け、幅広く活用ができるようにしている。本教材については図1に示すURLで発信しているので参照されたい。

(2) 教材活用のねらい

本教材の活用に当たっての、主なねらいについて五つ述べる。

情報活用能力を育成する。

本教材の使用は、教科に関する学習の選択肢を増すことになり、情報の収集・判断・表現・処理などを行う情報活用の実践力の育成に寄与する。またインターネットなど情報手段の特性を理解し情報を適切に扱い、自らの情報活用を評価・改善することにより、情報の科学的な理

解を育成する。さらに、目次の「交流学習」に関するページ(図2参照)に設けている電子掲示板などを活用することにより、コミュニケーション能力など情報社会に参画する態度を育成する。

興味・関心を喚起する。

インターネットやパソコンを使用するというだけで生徒を引きつけるのではなく、教材にカラー写真やイラストなどを多く使用することにより、学習への意欲や関心の向上を図る。

教科内容の深化を図る。

目次の「各時代のテーマから調べる」に関するページ(図3参照)を開き、教科書と併用しながらを活用することにより、教科書で学習した内容の一層の深化を図る。

教科内容の定着を図る。

目次の「チャレンジコーナー」に関するページ(図4参照)を開き、ページに記載されている問題や課題にチャレンジすることにより、学習した内容の定着を図る。

郷土の理解を深める。

目次の「遺跡名や地図から調べる」に関するページ(図5参照)を開くと、県内



図3 「各時代のテーマから調べる」に関するページ



図4 「チャレンジコーナー」に関係するページの主な遺跡の概要を、遺跡名や、遺跡の位置を示した鹿児島県の地図からつかむことができる。これらの歴史学習によって、郷土についての理解を深める。

からは、上記で説明した Web ページと1対1で対応するものでなく、それぞれの Web ページと互いに重なりながら関係している。

(3) 教材活用の具体例

本教材の活用例として、「調べ学習」の活用例と「交流学习」の活用例を紹介する。



図5 「遺跡名や地図から調べる」に関係するページ

ア 「調べ学習」の活用例

「各時代のテーマから調べる」に関するページや「遺跡名や地図から調べる」に関するページを活用して、調べ学習を実施する。ここでは、情報活用能力の育成と教科内容の深化・定着を主なねらいとしている。中学校1年生の社会科で、縄文時代から弥生時代までの概要を教科書で学習した後、課題を選択し、本教材を活用しながら1時間の調べ学習を行う。この学習における学習活動を次に示す。

学 習 活 動	
導 入	<p>縄文時代と弥生時代の学習内容を再確認する。</p> <p>衣・食・住などについて学習課題を設定する。</p> <p>縄文時代と弥生時代の人々の衣・食・住などの違いについて調べよう。</p>
展 開	<p>学習課題について調べる。</p> <p>(1) 衣・食・住などの観点から自分が調べていく課題を一つ選ぶ。</p> <p>(2) Web教材を使って調べる。</p> <p>どんな違いがあるのか。</p> <p>鹿児島県のどこで発見されたか。</p> <p>気付いたこと、分かったことなど</p> <p>(3) 他の友だちとも比べてみる。</p>
終 末	<p>調べて分かったことを発表する。</p> <p>衣・食・住などの中から自分が調べた内容について再確認する。</p> <p>授業の感想を発表する。</p>

生徒たちは、本教材に記載されているたくさんの衣、食、住などの写真や説明に対して強い興味・関心を示し、教科書を併用しながら選んだ課題について調べていた。この中で、多くの情報を収集・選択し、まとめることによって、情報活用能力が高まるとともに、教科内容の理解が深まり定着

が図られたものと考えられる。また、本県の自然環境や先人の生活の様子などを調べることによって、郷土についての理解を深めることができたと思われる。「いろいろなものから調べることができて楽しかった。」とか「写真が豊富で具体的にわかってよかった。」と生徒たちは、成就感や充実感を感想として述べている。

イ 交流学习における活用例

図2に示す電子掲示板を活用して交流学习を行う。身近にある遺跡に関し、電子掲示板を通して、お互いに質問したり感想を述べたりすることにより、情報活用能力の育成と教科内容の深化を主なねらいとしたもので、中学校3年生の選択社会での活用例である。交流はグループ単位で行い、電子掲示板への生徒氏名の記入は個人の特定につながるのでイニシャルか名前のみとしている。生徒たちは、近くの遺跡や資料館で調べ学習を行い、身近にある遺跡について学習した後、教師の指導のもと、交流学习を行っている。ここに、生徒の交流の一部を紹介する。

月 日 A中学校

こんにちは、A中のY子です。今日調べたことは連結土坑です。連結土坑とは大きい穴と小さい穴がトンネルでつないであり、薫製を作るためのものです。B遺跡にも連結土坑はありますか。

月 日 B中学校

B遺跡のことを資料館で調べたら焚き火の跡と見られる焼土遺構が6つ見つかっています。直径90センチもある大きなものです。3万年前からここBには長期間とどまった人がいるみたいです。日本でも珍しいと書いてありうれしくなりました。

月 日 B中学校

A中のみなさんこんにちは。みなさんがたくさんメールをくださったことで、うれしい気持ちでいっぱいでした。みなさんは、夏休みにボランティアで遺跡の説明をされるのですね。聞いてみ

たいな、行ってみたいなと思っています。実現したときはよろしくお願いします。みなさんも自然豊かなBに是非おいでください。

(注) 文章は読みやすくするため、少し訂正している。

生徒たちは、パソコンを使った他校との交流に大きな期待と興味を持っていったようである。近くの遺跡や資料館で行った調べ学習を基に、疑問に思ったことや質問したいことをまとめ、相手の気持を考えながら、さらに、漢字にも注意を払いながら積極的に交流を行っていた。これらの交流を通して、情報活用能力を育成するとともに教科内容の理解を深め、郷土に対する愛情も育めたものと思われる。

3 更なるWeb教材活用を目指して

インターネットや校内LANを授業に活用すれば、教科に関する多くの情報を収集することが可能となる。また、Web教材は教科に関する有効な情報源といえる。Web教材を教師が自作すれば、児童生徒の実態に合った、より有効な情報をもつ教材とすることができる。インターネット上には他にも有効なWeb教材があると思われるが、これらも含め、児童生徒の個に応じた、より分かりやすく魅力のあるWeb教材が数多く発信され、一層効果的な授業が実現されることをめざしたい。多くの有効性をもつWeb教材が多くの学校で活用されることを期待する。

本調査研究については、来春発行予定である「研究紀要第101号」を参照いただきたい。

(情報処理教育研修室)